別記(二)

星製薬営業部　浅井善八君よ！

君は星製薬の給料未払問題に際し勇敢に重役に向って闘った勇士であった。即ち六月四日(星退)重役諸公に第二の要求の書を行き、人情の機微を捉へて涙を以て訴へ且説明したものである。続いて君は今度星社内食堂に於て会社の共栄[illegible]に加集せらるゝに当り自ら壇上に登りて「昨秋は重役と闘ふため血盾に一腔ならしむかれ」との其の活動振りを自讃し自己のニックネーム「[illegible]」の所以を満場に説明した。而も昨日君は営業部主任会を開き諸君の態度はなま温い[illegible]」とけしかけながら聖者振りに立って争議団の四日前の行動は悔しも軽率なためのなく極力弁解したと云ふ。重役共から「来る給料を支拂ふ」と金銭に釣られ[illegible]其れを破った其の翌日より二十日にかけて重役共の陰謀によって忽ち[illegible]として[illegible]支部[illegible]に[illegible]会[illegible]の[illegible]より脱退せずして密かに加入したと言ふ者その心事の衷小なる君は[illegible]星製薬の[illegible]実際第一班隊長として関西に巡歴した際将来は[illegible]会社に挽歩せぬは勿論隊員の同盟の為めにさ(?)其の同多数の要求を不服にせりとの定評ある人物星協力[illegible]を低級に求め高額に売って[illegible]の利益を[illegible]その小人的行動。君は多数の同志を売り新しく今は[illegible]にあるはまだしも[illegible]側の[illegible]に[illegible]自己の地位擁護に汲々としてゐる。其の無恥よ。君の[illegible]的[illegible]あゝ恥を知れ！諸二十余名の[illegible]を[illegible]にして[illegible]あゝ其の態度！

自己の無恥不徳は星製薬の滅亡として後程のて醒めるか

昭和五年六月二十日

星製薬争議団本部

[illegible]二ノ一

争議日報　No.15　1930　6.20

女軍の意気

「それは女だからねエ」と云ふことを人間外のもの、ように何かあると云ったもんだ！　そして婦人自身も「妾は女だから弱いのだ。ヒドイことをされても言はれても仕方がない」と思ふてゐた時代もあったがそれは昔のことだ。今は女は台所から奥座敷から街頭へ工場へエプロンを掛けたり半天を着たりして男と伍して働かねばならぬ時代になって来た。紡績八十万の女工を始め石鹸、製茶、セルロイドの諸工場は婦人の数は男よりも多い。斯うなれば勿論「女は男に食はして貰ふのが当り前よ」と言った時代と違って来るのが当然だ。

不活発な丸まげより活動的な今流行のヒッツメ頭が今の女として女らしく見はれるのもその故だ長い振袖より元禄になり洋装になるもそのためだ。

女は今や男と共に立派な人間だ！

「星争議団の婦人が男より結束の堅いのは不思議だ」さうであるが之れは少しも不思議はない。平常人一倍不当に抑へられ虐しめて居るものに対する反逆心は燃えて居るのだ。表へ表はれようが現はれまいが、賃銀の高い人より安い人「優遇」されてゐる者より虐待されてゐる者の方が反抗心の強いのは当り前だ！

星の姉妹は直接には星に対して一般的にはブル社会に対して不平不満が男より強かるべきである。それはブル社会は婦人を動物の水準に置き星の場合は「女だから同じ仕事をしても賃銀が安い」からである！　そして之に対する婦人の不平は正しい当然だ。姉妹達が「妾は女だから」と云ふ古い昔の考へ方を一掃することが出来たなら社会的に婦人達より「ヨウグウ」されてゐた男をヒッパタイて突きずって行く事は意識

大[illegible]争議団本部